

# TAの活躍を促す6つのポイント

- ・TAは教育活動を補助してくれる感謝すべき存在です。対価を支払うために、大学院生のちょっとしたアルバイトとも考えられていますが、ここではさらに一歩考えを進めて、TAを大学院生に対する貴重な教育機会ととらえてはどうでしょうか。大多数のTAが、役割を与えられ、授業の中で活躍できることを望んでいます。
- ・研究領域が高度に細分化した今日、大学院生が特定分野の狭い研究に専念すると、知識の統合や実践といった形の知識獲得の機会が減り、卒業後の社会で活躍するための技術や経験が十分学べなくなる恐れがあります。
- ・大学院生が教育者としての訓練と経験を得ることは、専門領域に対する幅広い理解力、初学者の理解を判断する洞察力、他者と円滑なコミュニケーションを行う力、集団をまとめる統率力等を高める訓練になり、全ての院生にとって有益と考えられます。

## ① オリエンテーションを行きましょう

初回の授業日までに、TAと面談をしましょう。ごく短時間でかまいません。授業の目標や授業の計画を説明し、「なぜこの授業にTAが必要なのか」「TAのあなたに何を期待しているか」を説明しましょう。過去のTAの活動内容を紹介したり、実際に先輩TAを紹介してもよいでしょう。



## ② 授業内容の理解を促しましょう

多くのTAが、授業内容の知識が足りずに学生からの質問に答えられなかったという悔しい経験をしています。TAには授業の内容を十分に理解してもらいましょう。毎回の授業の数日前に進行手順・実験手順を伝えたり、練習問題・予習課題や読むべき文献を渡しておきましょう。



## ③ 職務を明確に指示しましょう

TAの公式労働時間は大変短いのが現状で、学生からの時間外の質問に善意で対応しているTAも多くいます。従業時間は授業時間中が主なのか、授業時間外なのか、内容は実験補助なのか、採点補助なのか、グループ討論のファシリテータなのか、教員が求める主たる職務と労働時間算定の対象を明確にTAに示しましょう。



## ④ 受講生にTAを紹介しましょう

学生の前でTAを紹介し、授業にどのように関与するかを説明しましょう。これにより教員、学生、TAの三者間でTAの位置づけが明確になり、TA自身が職務を自覚するとともに、授業に参加しやすくなります。また、学生もTAに何を期待できるのかを理解できます。初回の授業に限らず、学生とTAが接する場を積極的に設定し、学生がTAから学ぶ機会を作るよう心掛けましょう。



## ⑤ 授業後に振り返りの機会を持ちましょう

授業後は、TAの活動で優れた点を褒め、不適切な点は改善するよう指導しましょう。学生指導に必要な知識や技能の不足があれば、同時に指摘しましょう。毎回の授業終了後に、TAの活動内容とその省察をごく簡単にまとめさせ、業務報告書として提出させてもよいでしょう。TAの活動が客観化できる上、次年度以降のTAの参考資料にもなります。



## ⑥ 評価に関わらせる場合は特に入念な指導をしましょう

レポート等の評価の補助を担当するTAは、強い緊張・不安を感じています。評価基準が不明確になるほど、その傾向は高まります。TAを評価活動に関わらせる場合は、評価基準の明確化、手順や方法の標準化を行い、最終的な責任が教員にあることを伝えた上で従事させましょう。また、評価に必要な知識や技能を備えているかも確認しましょう。



「TAの活躍を促す6つのポイント」は「平成18年度TAによるTA制度の現状に関する意見交換ワークショップ」の結果に基づいて作成されました。